

漁獲シナリオ等の検討について 今後のスケジュールについて

資源管理方針に関する検討会
～第5回ズワイガニ日本海系群B海域～

令和8年2月27日(金)

水産庁

資源管理目標の案

● 資源評価に基づき研究機関から提案されている資源管理目標の案を採用する。

項目	新しい案	現行
目標管理基準値 =MSYの代替値を達成する漁獲圧力としてF40%SPR(加入量当たり親魚量(雌のみ)が、漁獲圧力が0の場合の加入量当たり親魚量に対し、40%となる漁獲圧力の水準)とすることで達成される資源水準の値	1,217トン	F30%SPR(加入量当たり親魚量(雌のみ)が、漁獲圧力が0の場合の加入量当たり親魚量に対し、30%となる漁獲圧力の水準)とすることで達成される資源水準の値
限界管理基準値 =下回ってはいけない資源水準の値(過去最小の親魚量)	415トン	(可能な限り早期に手法を開発して設定する)
禁漁水準	0トン	-

※親魚量は雌のみ

漁獲シナリオの案

- 親魚量が10年後の2036年に、50%以上の確率で目標管理基準値を上回るよう、漁獲圧力を調整する。なお、研究機関からは、資源評価の不確実性も考慮して、 $\beta = 0.7$ 以下にするのが望ましいとされている。
- 親魚量の値が限界管理基準値を上回っている場合には、MSYの代替値を達成する漁獲圧力の水準に調整係数(β)を乗じた漁獲圧力とする。
- 親魚量の値が限界管理基準値を下回っている場合には、当該親魚量の値から禁漁水準を減じた値を、限界管理基準値から禁漁水準値を減じた値で除すことにより算出した係数を、上記に基づき算出した値に乗じた漁獲圧力とする。
- 親魚量の値が禁漁水準値を下回っている場合には、漁獲圧力は0とする。

表1. 将来の平均親魚量 (百トン)

2036年漁期に親魚量が目標管理基準値案 (1,217トン) を上回る確率

β	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	
1.0	36.4	36.7	33.5	30.6	28.1	26.1	24.4	22.9	21.4	20.3	19.4	18.5	71%
0.9			33.8	31.3	29.2	27.3	25.7	24.1	22.8	21.8	20.8	19.9	76%
0.8			34.3	32.2	30.3	28.7	27.2	26.0	24.9	23.9	22.9	22.2	81%
0.7			34.6	32.9	31.5	30.0	28.8	27.7	26.7	25.8	24.9	24.2	85%
現状の漁獲圧			37.1	37.9	38.6	39.1	39.8	40.4	41.0	41.5	42.0	42.6	98%

表2. 将来の平均漁獲量 (百トン)

β	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036
1.0	3.8	12.2	11.4	10.6	10.0	9.4	8.9	8.5	8.1	7.8	7.5	7.3
0.9		11.1	10.4	9.9	9.4	9.0	8.6	8.2	7.9	7.7	7.4	7.2
0.8		9.9	9.5	9.1	8.7	8.4	8.1	7.8	7.6	7.4	7.2	7.0
0.7		8.7	8.4	8.1	7.9	7.7	7.5	7.3	7.1	7.0	6.8	6.7
現状の漁獲圧		2.7	2.8	2.9	2.9	3.0	3.1	3.1	3.2	3.3	3.3	3.4

今後のスケジュールについて

R7年 7月15日	第4回SH会合 <ul style="list-style-type: none">・ 現行の資源管理方針及び資源の状況等について説明・ 今後SH会合で検討すべき事項について説明・議論
R7年9月26日	資源評価結果公表
	本日の検討会はこちら
R8年 2月27日	第5回SH会合 <ul style="list-style-type: none">・ 令和7年度資源評価結果について説明(資源管理の目標(案)及び漁獲シナリオ(案)の提示を含む。)・ 資源管理目標、漁獲シナリオ等の議論・ 議論の取りまとめ
R8年4月	パブリックコメント開始 (SH会合の取りまとめを反映した、資源管理方針の変更(案)) ※期間は1カ月
R8年5月	水産政策審議会資源管理分科会 <ul style="list-style-type: none">・ 資源管理方針の変更(案)の諮問・ 令和8(2026)管理年度のTAC及びその配分(案)の諮問
<知事管理漁獲可能量設定に係る関係海区漁業調整委員会への諮問(各県)>	
R8年7月	令和8管理年度開始(～令和9年6月末)